

# 本年度の校内研究について

## 1. 研究主題

【学校教育目標】

知恵があり、心豊かで、たくましい宇佐っ子の育成



【めざす児童像】

- 主体的に学び、自分の考えを言える子（かしこい子）
- お互いを認め合い、助け合う子（やさしい子）
- 目標や夢に向かって努力する子（たくましい子）



【研究主題】

自他の思いや考えを大切にし、支え合える児童の育成  
～子どもの思考に沿った道徳の時間の学習活動を求めて～

## 2. 主題設定の理由

平成26・27年度の2年間、宇佐市人研研究協力校として「明るく楽しい学校生活を通して、相手や自分を大切にできる心を育て、確かな学力を身につける」をテーマに研究に取り組んできた。また、校内研究でも道徳の授業を中心に研究をすすめてきた。昨年度は、子どもたちが意欲的に考えを持ち発言できる課題や発問について、また互いの考えを認め合ったり、自分の考えを深めたりする学び合いについて研究してきた。課題（主要発問）については、子どもをどの立場で考えさせるのか、またそれぞれの立場がわかりやすい板書の工夫等、課題も出された。

本校の子どもたちは、挨拶がよくでき素直で元気で前向きな反面、言葉づかいが乱暴なことや自発的な行動が少ないこと、授業中間違うことを気にして声が小さくなること、友だちに対して偏った見方が固定化していること、自分のことより友だちが間違っただけ・悪かったことが気になるという実態が見られる。

そこで、本年度は受容的な関係づくりをめざした学級経営のもと、道徳の授業を中心に、自分の考えを発表し友達の考えを聞き、交流し合う中で、自分の考えをさらに深められる学習活動の工夫をしていきたい。

## 3. 主題の分析

○自他の思いや考えを大切にすることは・・・

自分の思いや考えを表現したり、友だちの意見に耳を傾けたりすることである。そうすることで、自分が必要とされているという気持ちになっていく。

○支え合うとは・・・

耳を傾けた友達の思いや考えに対して、周りの子どもたちが自分の思いを返す。そうすることで、相互に高め合う喜びやつながりを感じるようになっていくことである。

○道徳の時間における子どもの思考に沿った学習活動とは・・・

道徳の授業においては、常に『自分はどう考えるのか』という内省的視点が欠かせない。資料と出会った時に生まれてくる心の葛藤を「自己との交流」としている。

「他者との交流」とは、道徳の時間に示される課題（中心発問）について、考えを交流し合う段階において、心を開いて自分の考えを話し、友だちの意見を聞くことである。「自己との交流」で見つけ出した自分の考えを友だちと交流し合うことで、初めて新たな価値に気づいたり、自分の考えを深めたりすることができると思う。

#### 4. 研究仮説

交流の場面で、子どもたちがまず自分の考えを出し友だちの考えを聞き、それに対して自分の考えを活発に発表し合えるような学習活動の工夫をすれば、自分の考えを深めることができ、自他の思いや考えを大切に、支え合える子どもが育つであろう。

#### 5. 研究内容

(1) 自分の考えを持ち、深め、まとめにつなぐ学習活動づくり

- ①子どもがつかみやすく、ねらいに直結する課題の工夫
- ②自分との関わりで書かせるワークシートの工夫
- ③自分の考えと友だちの考えを比較し、異同を理解し自分の考えを深めたり広げたりする学習活動の工夫

(2) 子どもの反応を予想し、補助発問でつなぎ、まとめをする。

- ①ねらいに迫るための補助発問の工夫（切り返しやゆさぶりの発問）
- ②子どもたちから出てきた考え方を整理する。  
無理やり一つの考えに集約したり、特定の考えを□で囲んで強調したりするような「まとめ」は行わない。
- ③自分自身を見つめる振り返りを大切にする。  
本時の学習に関わっての、これからの自分の生き方や思いを書く。  
(道徳的実践力につながる意識づけ)

(3) 交流を深めるための板書の工夫

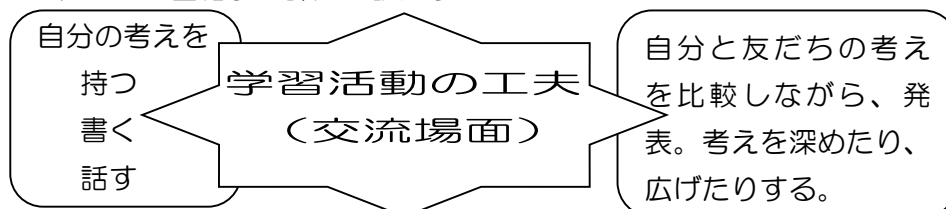
- ①子どもたちから出てきた多面的・多角的な考え方を視覚的にとらえやすいように整理し、構造的な板書の工夫
- ②話し合いが進行するにつれ、自分の考えが変化した場合にネームプレートや付箋紙の張り替えをする。

## 本年度のポイント

### 【道徳の授業】

**導入** 本時の問題意識や興味・関心をもたせる（価値や資料への方向付け）  
（資料の範読）

**課題** ねらいに直結する課題を設定する



**まとめ** 子どもたちから出てきた考え方を多面的・多角的に捉えさせる  
（一つの考え方にむりやり集約したり、特定の考えを強調したりすることが「まとめ」ではない。）

**振り返り** 本時の学習に関わって、今の自分がどのような状況なのか振り返らせる  
（自分を見つめる。これからの自分の生き方や思いを培う。）

### 【学校生活全体】

自己決定し、生活を見直し変えていこうとする行動力



自他の思いや考えを大切にし、支え合える児童の育成

## 6. 研究計画

月	研 修 計 画
4	○研究主題、研究仮説、研究内容の決定      ○研究組織づくり
5	○研究計画の決定      ○第1回校内研究会指導案づくり
6	○第1回校内研究会（指導主事招聘）・・・6月21日（水） ○互見授業①
7	○1学期末家庭学習・学力定着旬間の取り組みとその分析      ○互見授業② ○基礎基本定着（5年）の分析と改善策の策定
8	○2学期の研究計画      ○各種研修会への参加 ○提案授業（校内研、互見授業）の指導案づくり ○特別支援教育研修 ○学力学習状況調査（6年）の分析と改善策の策定
9	○互見授業③
10	○第2回校内研究会指導案づくり ○互見授業④

1 1	○第2回校内研究会（指導主事招聘） 月 日（ ） ○互見授業⑤
1 2	○校内学力診断テスト ○互見授業⑥ ○レポート作成
1	○校内学力診断テストの分析と改善策の策定 ○レポート審議
2	○各学年のまとめ作成
3	○年間総括と来年度の方向性の決定

(1) 分担

○提案授業……第1回校内研究会 ( 4年 授業者 大石教諭 )

第2回校内研究会 ( 3年 授業者 吉田教諭 )

※2回の提案授業を低・高学年部で受け持つ

○宇佐ブロック人権実践レポート ( 6年 発表者 辛島教諭 )

○互見授業 ① ( 担任外 佐藤洋子教諭 )

② ( 1年 菊田教諭 )

③ ( 言語学級 末廣教諭 )

④ ( 5年 佐藤遥教諭 )

⑤ ( 支援学級 末 教諭 )

⑥ ( 2年 河野教諭 )

(2) 上記の方法に関して、以下の通りとする。

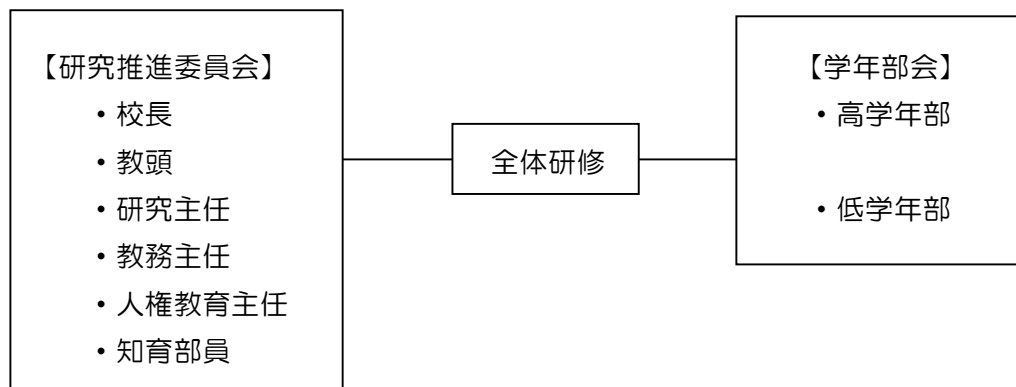
○事前研……校内研は全員で、その他は学年部で行う。

○提案授業参観……校内研は全員で、自主公開授業については、原則全員で行う。

○事後研……校内研・互見授業とともできるだけ全員で事後研を行い、研究の共有化を図る。

(3) 日常的な実践の積み重ねを大切にする。

## 7. 研究組織



## 8、学習指導案の形式と書き方

第○学年 道徳学習指導案

指導者 ○○ ○○

1. 主題名 例・・・2－(3) 友情・助け合い
2. 資料名 例・・・「いっしょにあそぼう」(出典名)
3. 目標 児童の側の語尾表現で。～することができる。  
(児童に到達してほしい心情か、判断力か、行動力か)

### 4. 指導の立場

#### ○児童観

- ・目標に関連する実態や教師の願い、目標の内容に関わって児童を見たとき、どのような状態なのか。
- ・目標に関連することに関わって、どのような指導を行ってきたか、その結果としてどのような成果と課題があるのか。
- ・学級で、どのような受容的關係づくりの取り組みをし、現在児童はどのような状態なのか。

#### ○教材観

- ・使用する教材のあらすじやねらいや指導内容についての教師のとらえ方を記述する。

#### ○指導観

- ・学習を展開する過程で特に留意すること
  - ①自己との交流を深めるための工夫
  - ②他者との交流を深めるための工夫

### 5. 指導計画(総時間○時間)

#### 第1次・・・導入(課題把握)

学習活動を記す。

#### 第2次・・・展開(課題追求)

学習活動を記す。

#### 第3次・・・終末(課題解決・発展)

学習活動を記す。

6. 本時案（第〇次の△時）

(1) 題目・・・本時の課題＝中心発問を書く。

(2) 主眼・・・文章記述の基本形は、

「～を、～することによって、～することができる。」

(3) 展開

学習活動	時間	指導及び指導上の留意点と予想される児童の反応	☆資料 ★評価の観点
1（導入）		※課題を提示するまでの活動を書く。	
2（展開）		課題＝中心発問（二重線で囲む）	
		※予想される児童の反応を書く。	
3 終末		補助発問があれば、実線で囲む。	
		※本時のまとめとして、どのような活動を持ちこむのか、どのように次の学習につながるのかを書く。	

7. 板書計画

※注意事項

○学習指導案の1～4をA4一枚以内で、5～7をA4二枚以内で書く。

○提案授業は、すべて書く。自主公開授業は、本時案のみ書く。